

片品村 花の駅・片品
個別施設計画

【令和3年度から令和12年度】

片 品 村
むらづくり観光課

1. 計画の位置づけ

片品村花の駅・片品個別施設計画は、平成28年10月に策定された片品村公共施設等総合管理計画を上位計画とした個別インフラ長寿命化計画として位置付けられます。

2. 対象施設

本計画では、「花の駅・片品」の建物及び設備を対象とする。

3. 計画期間

本計画の期間は、令和3年4月から令和13年3月までの10年間とする。

なお、計画の内容については、5年ごとに見直しを行う。

4. 対策の優先順位の考え方

当該施設は住民福祉の増進と地域の農業観光振興を図るため設置された経緯があり、日帰り温泉施設として利用者の出入りが多くあることや、村外から訪れる観光客が多く利用するといった当該施設の特性を踏まえ、利用者の安全確保を最優先に考え修繕を行っていく。

次に、施設利用の継続性を考え、施設を利用するために必要な修繕を行っていく。

また、今後対策が必要となる事項として、ボイラー2基が耐用年数を大幅に超えており、故障した場合は更新が必要であるほか、浴槽に漏水していると思われる箇所があるため、必要に応じて大規模改修が必要である。

5. 個別施設の状況等

(1) 施設概要

1	名称	花の駅・片品「花咲の湯」
2	所在地	群馬県利根郡片品村大字花咲1-1-13番地
3	構造	鉄筋コンクリート造一部木造 地上1階・地下1階建て
4	敷地面積	6,473.83㎡
5	建築面積	1,412.35㎡
6	完成年度	平成10年度
7	施設内容	館内：室内浴室2・水風呂2・露天風呂2・サウナ2・岩盤浴・レストラン・大広間・売店・ジェラートコーナー・イベントホール・版画ギャラリー・玄関・事務室・機械室 館外：ナチュラルガーデン・芝生広場・鯉のぼり広場・育苗ハウス・駐車場・物置・受電設備

(2) 施設の状態

花の駅・片品は施設開設から約22年が経過しており、都度メンテナンスを行い破損箇所等の改修を行っている状況ではあるが、全体的に老朽化が進行しており、劣化がみられる。特に温泉の設備部分は常に高温にさらされており、劣化が目立ってみられる。

建物としては、屋根の天窓付近から豪雨時に雨漏りする箇所があることや、露天風呂においては、周りのタイルが剥がれている箇所や、木製の日よけ屋根及び界壁が腐食しているため全体的な修繕が必要である。

(3) 修繕等の状況

過去3年間の修繕等の状況は以下のとおりである。

年度	工事名
平成29年度	岩盤浴施設新設工事
	エレベーター改修（かご交換）工事
	イベントホール空調設備修繕工事
平成30年度	レストラン空調設備入替工事
	テラス修繕工事
令和元年度	ろ過装置入替工事
	レジシステム入替工事
	大広間畳表替え工事
	フロント売店空調設備設置工事

(4) 入館者数の推移

過去10年間の入館者数の推移は以下のとおりである。

年度	開館日数（日）	入館者数（人）	日平均入館者数（人）
平成22年度	337	140,894	418
平成23年度	340	135,591	399
平成24年度	338	142,910	423
平成25年度	337	146,350	434
平成26年度	336	142,349	423
平成27年度	339	135,022	398

平成 28 年度	338	127,488	377
平成 29 年度	338	121,785	360
平成 30 年度	335	120,534	360
令和元年度	327	111,118	340

6. 対策内容と実施時期

(1) 対策内容

花の駅・片品の改修は、温泉施設の老朽化に伴い、老朽化した箇所の改修のみ行う必要最小限の改修とするか、施設の規模等を抜本的に見直しさらに進化させるか、今後どのように使用していくか、方向性について検討していく必要がある。そのため、村・指定管理者・地域住民を含めて構成されている「花の駅片品運営委員会」等で議論を行い今後の方向性を決定し、その決定に基づいた施設の改修を計画する。

なお、建物自体の劣化を防ぐための改修は計画的に行っていく。

(2) 実施時期

令和 3 年度 花の駅片品の今後のあり方を検討する。

令和 4 年度 花の駅片品のあり方の検討結果に基づき、改修計画を策定する。

7. 対策費用

対策費用については、花の駅片品の使用方法を検討し方向性を統一した後でなければ算定することができないため、方向性決定後に対策費用を算定する。